

## 第2章 野々市市の地域福祉を取り巻く現状と課題

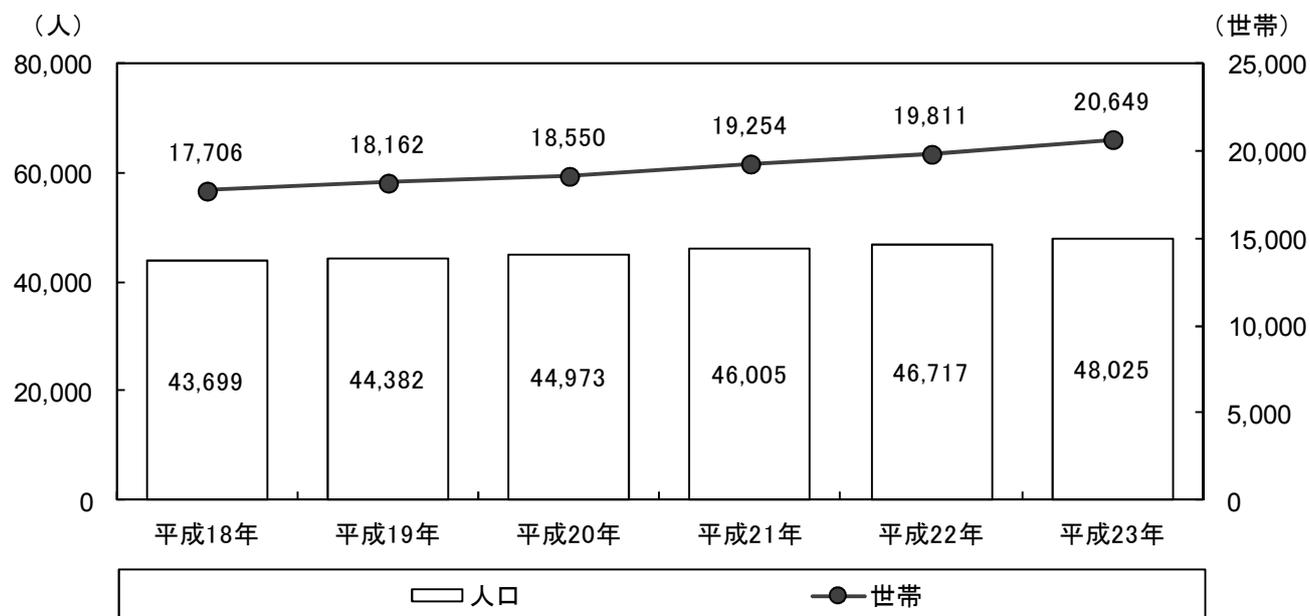
アンケート調査をはじめ、地域座談会やテーマ別部会などから市民の意見を聴取するなかで、本市の地域福祉を取り巻く現状と課題を把握しました。地域福祉を推進するにあたって、さまざまな地域特性や社会資源がある一方で、解決すべき課題があることも分かりました。

### 1 野々市市の概要

#### ①人口

わが国の総人口は減少傾向にありますが、本市においては、近年特に人口の伸びが顕著となっており、今後もしばらく増加していくと見込まれています。

なお、平成22年に行われた国勢調査では、本市の人口は51,885人となっています。



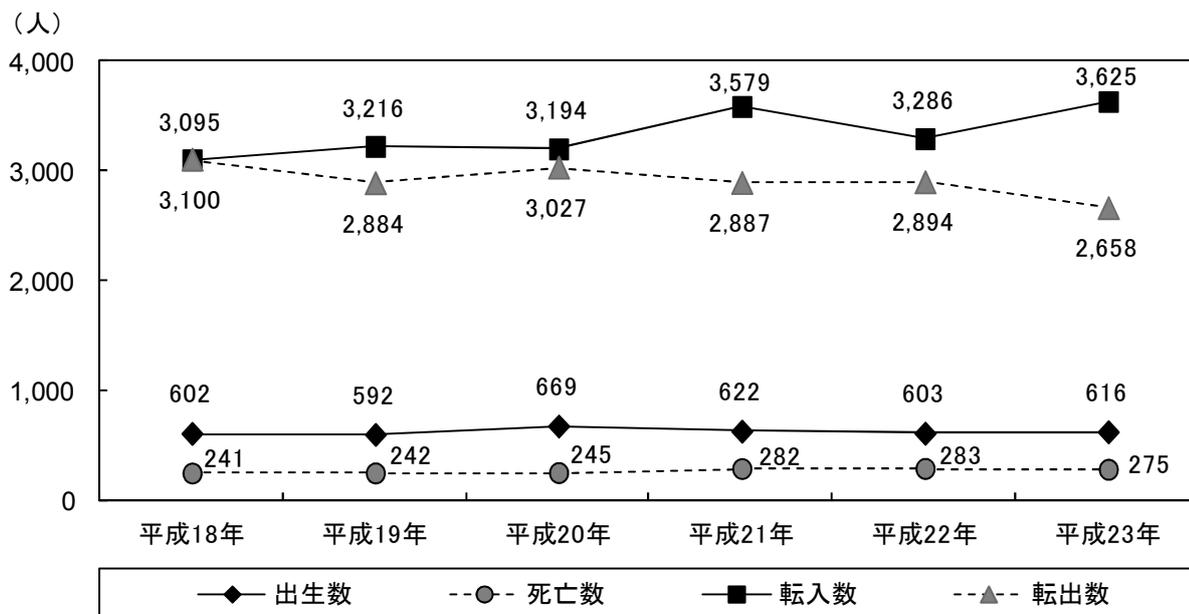
※上のグラフは住民票の届出に基づく住民基本台帳の数値のため、実際に居住している人の数とはかい離があります。

資料：住民基本台帳（12月末現在）

## ②人口動態

平成23年の転入者は3,625人、転出者は2,658人と、転出者より転入者が上回っています。中南部土地区画整理事業の完了による住宅の伸びや、現在整備中の北西部区画整理事業を鑑みると、今後も転入者の増加が見込まれます。

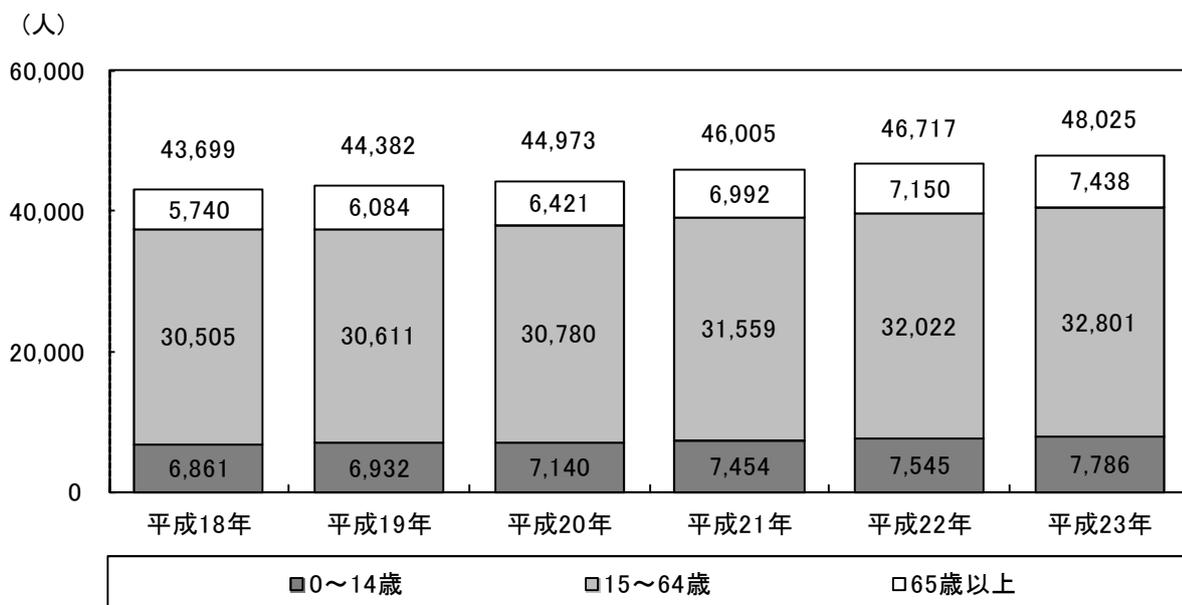
また、出生数については死亡数の2倍以上になっており、人口増加の要因となっています。



資料：総務企画課（年集計）

### ③年齢別人口

年齢別に人口を見てみると、年少人口（0歳から14歳）と生産年齢人口（15歳から64歳）は、ほぼ横ばいで推移していますが、老年人口（65歳以上）は増加しており、本市においても、高齢化が進行していくことが予想されます。

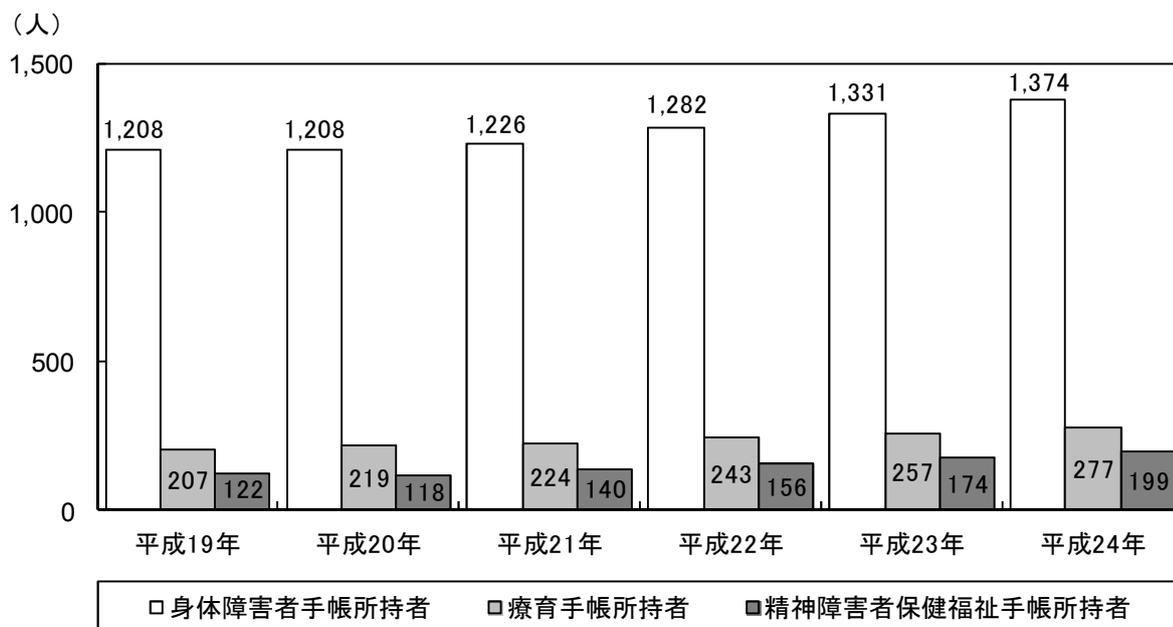


※総数は年齢不詳分を含むため、年齢別人口の合計と一致しない場合があります。

資料：住民基本台帳（12月末現在）

#### ④障害のある方

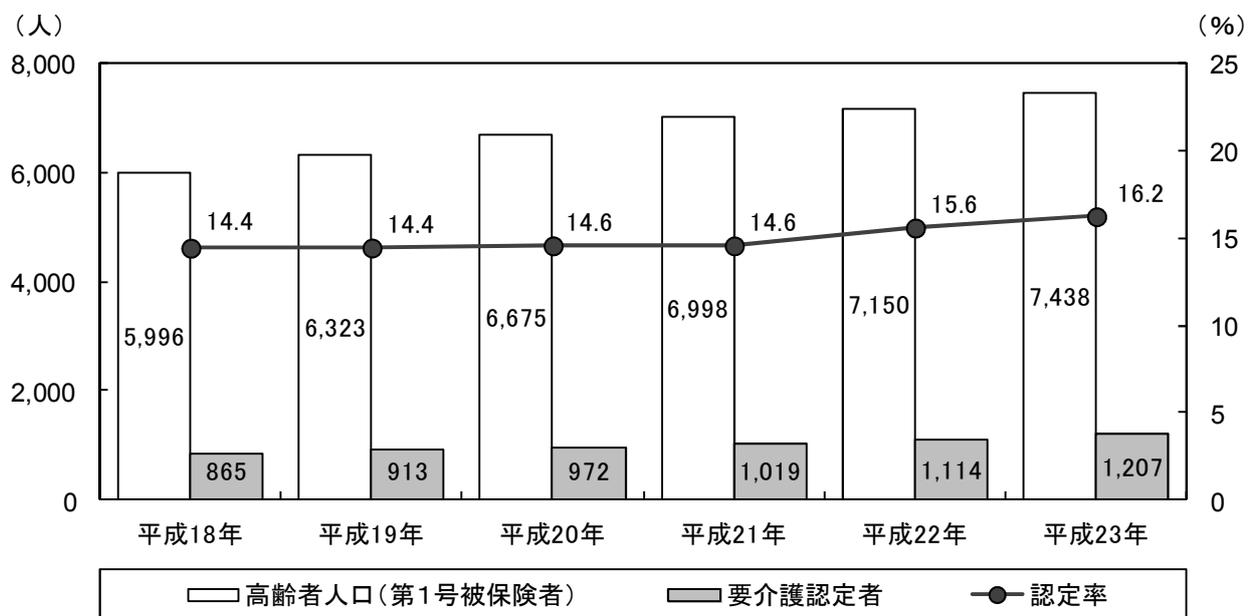
障害のある方には障害の内容、程度により手帳を交付しています。身体障害者手帳、療育手帳の年間交付者数は微増傾向にあり、精神障害者保健福祉手帳保持者数は増加傾向にあります。



資料：福祉総務課（3月末現在）

### ⑤介護を必要とする人

介護認定率は年々増加する傾向にあります。高齢化の進行に伴い、今後も介護認定者が増加すると予想されます。

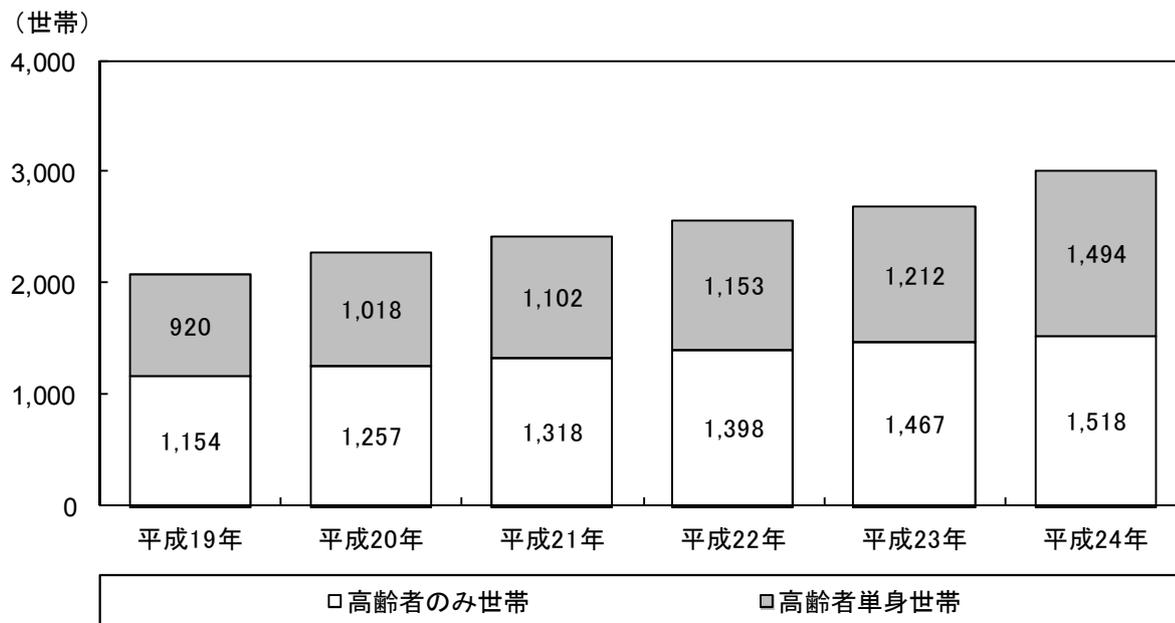


※介護保険制度では、65歳以上の第1号被保険者と、40歳以上65歳未満の第2号被保険者とに分類されています。

資料：介護保険事業状況報告（12月末現在）

## ⑥高齢者世帯

高齢者単身世帯や高齢者のみの世帯が年々増加しており、全世帯にしめる割合も増加しています。



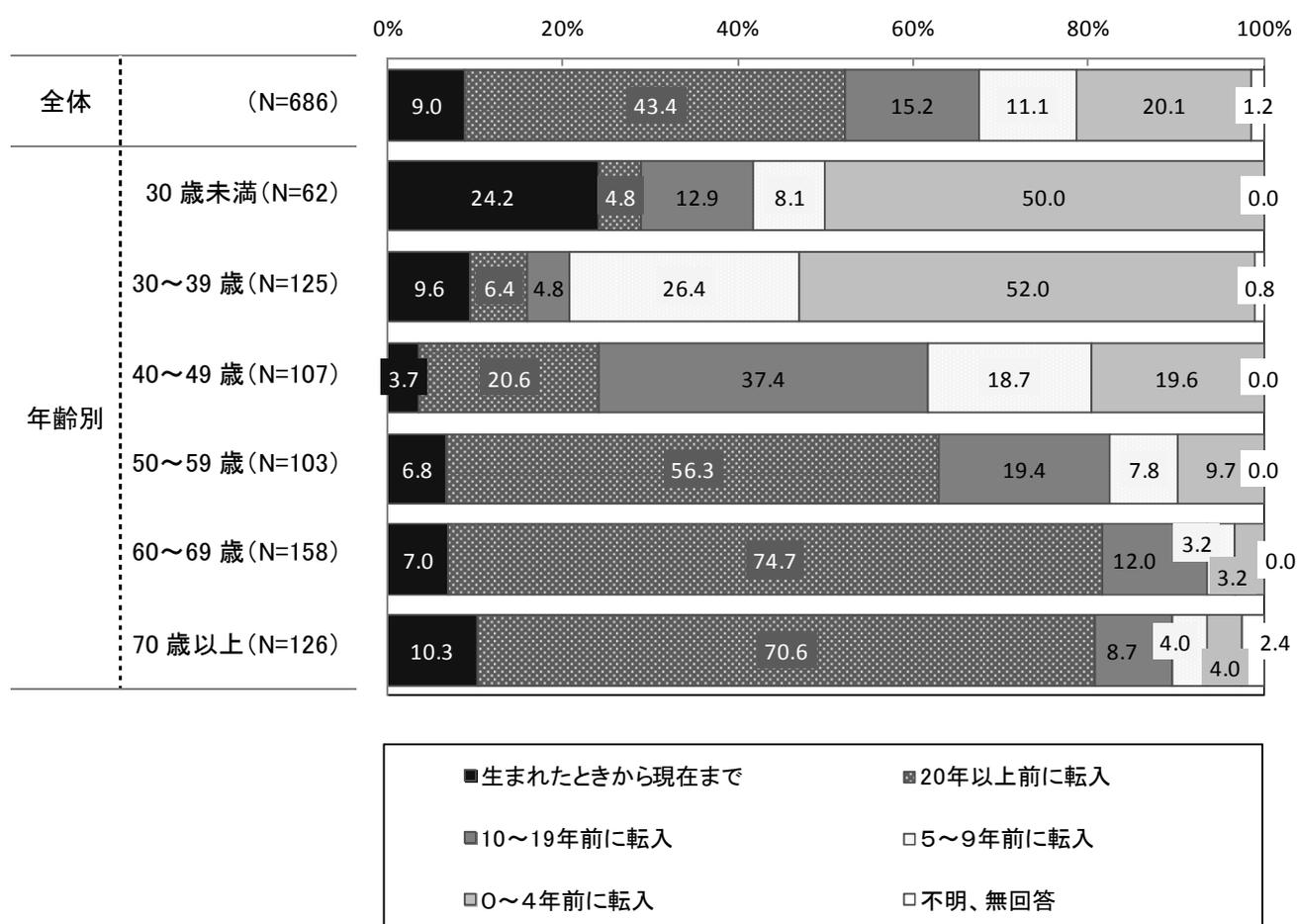
※「高齢者のみ世帯」には高齢者単身世帯を含みません。

資料：介護長寿課（3月末現在）

### ⑦居住期間

居住年数について、「20年以上前に転入」が43.4%と最も高く、次いで「0～4年前に転入」が20.1%となっています。また、「生まれたときから現在まで」は9.0%と最も低い割合となっています。

30～39歳にかけては「0～4年前に転入」が最も高いことから、若い世代ほど転入の割合が多い状況にあります。



資料：「野々市市地域福祉計画」「野々市市地域福祉活動計画」策定に関するアンケート調査報告書（平成24年2月）

## 2 現状と課題

アンケート調査や地域座談会の結果から、本市における地域福祉のテーマを「参加」「支え合い」「つながるしくみ」「地域環境」の4つに設定しました。そのテーマごとに現状と課題をまとめました。

### (1) 「参加」から見る現状と課題

#### 現 状

##### ・若くて活気がある

平成22年国勢調査による平均年齢は39.7歳、高齢化率は15.6%と、石川県内で最も若いまちであり、若くて活気のあることが特徴といえます。

また、市制施行により、市民一体となったまちづくりに対する気運が高まっていることも地域特性として挙げられます。

市では世代間交流や健康づくりを目的として「のっティ体操」の普及に取り組んでいるほか、市社協ではボランティア団体の協力のもと、世代間交流を目的に「お年寄りと子どものフェスティバル」を開催するなど、子どもから高齢者まで幅広い世代が参加、交流できるさまざまな取り組みを行っています。

さらに、春には「椿まつり」、夏には「じょんからまつり」、秋には「じょんからの里マラソン大会」などといった市民参加型のイベントを、1年を通じて開催しています。

#### 課 題

##### ・市民同士のあいさつ・声かけ、交流

優良な宅地が整備されると共に、商業施設や医療機関などが増加し、生活環境が充実してきたことから転入者が多くなっています。

こうした状況を背景として、地域座談会では「近所付き合いが希薄になってきた」「隣近所にどんな人が住んでいるのか分からない」「新旧の地域間の交流が少ない」「世代間の交流が少ない」といった課題が挙げられました。アンケート調査からも、若い世代ほど隣近所との付き合いが希薄である傾向が見られます。

さらに、若い世代ほど賃貸アパート・マンションに暮らす割合が高いことから、地域座談会では、賃貸アパート・マンションの住民について、「顔や名前が分からない」「日頃の付き合いがない」「転出入者を把握できない」といった都市的な課題が挙げられました。

また、テーマ別部会では、ひとり暮らし高齢者など、地域で孤立しやすい人をはじめ、地域とのかかわりを望まない人への対応の重要性についても話し合われました。

支え合い・助け合いのまちづくりを進めるため、まずはあいさつや声かけなどから、市民同士の日頃の関係づくりや交流を増やすことが求められています。

#### ・若い世代や転入者などの地域活動への参加

アンケート調査からは、若い世代が地域活動へ参加する割合が低い状況が見られます。

地域座談会では、地域活動について「参加者が固定化している」「参加者が高齢化している」という課題が挙げられました。

また、「若い世代や転入者は地域活動に興味があっても、参加しにくいのではないか」「地域の情報が届いていないのではないか」といった意見もあり、若い世代や転入者が多い本市においては、こうした人々を地域活動への参加につなげる取り組みが求められています。

## (2) 「支え合い」から見る現状と課題

### 現 状

#### ・地域活動が活発

市内には54の町内会があり、子どもの通学を見守る「見守り隊」をはじめ、自警団や自主防災組織など、それぞれの地域に密着し、活発な活動を行っている町内会もあります。

地域座談会でも町内会活動に関する意見が多く、「支え合いマップをつくっている」「美化活動を行っている」「バーベキュー大会などの交流イベントを開催している」「同好会やサロンがある」といった、さまざまな独自の取り組みが挙げられました。

また、子ども会や老人クラブなどの地域活動も活発に行われており、こうした活動を背景として、「地域住民の仲がいい」「まとまりがいい」といった意見も挙げられました。その反面、老人クラブでは、加入者の減少、高齢化といった問題も生じています。

#### ・市内にある3つの大学

工業系の金沢工業大学、生物資源環境系の石川県立大学、生涯学習系の放送大学石川学習センターと、3つの大学が立地しており、多くの学生が暮らしています。「第一次総合計画」においても、「大学連携の推進と地域参加」を掲げ、地域産業や生涯学習など多くの分野において、大学・学生・市による協働のまちづくりを進めています。

### 課 題

#### ・地域における社会資源（ヒト・モノ・情報）の活用

アンケート調査からは、「地域での支え合いや助け合い活動」を多くの市民が必要だと感じており、除雪の手伝いなど、日常生活での困りごと、災害時の避難支援など、さまざまな場面で市民の協力が求められていることが分かりました。

地域座談会では「地域のどんな人が何に困っているか分からない」「個人情報保護の壁があって活動が難しい」といった意見もあり、ひとり暮らし高齢者や障害のある方、ひとり親家庭、子どもなど、支援を必要としている人を地域でどのように把握し、支えていくかが課題となっています。

また、各地域でさまざまな支え合い・助け合いが行われている一方で、それにかかわる人材や活動方法などの情報を、市民同士で十分に共有できていない状況が見られます。アンケート調査からも、あいさつや安否確認などの声かけや、除雪の手伝い、話し相手ならできるという回答が多く見られたほか、テーマ別部会では大学

や学生についても、地域における社会資源として活用していくべきだという意見が挙げられました。

人材や情報などのあらゆる地域における社会資源を市民同士で発掘し、共有・活用するとともに、支援を必要とする人へとつなぐ地域のネットワークづくりが求められています。

### (3) 「つながるしくみ」を取り巻く現状と課題

#### 現 状

##### ・町内会や民生委員・児童委員などによるきめ細かな見守り、相談

地域座談会では、町内会や班単位で「高齢者世帯への声かけ、安否確認を行っている」といった取り組みが多く聞かれました。また、アンケート調査からも困ったときの相談相手は、「家族」に次いで「近所の人」「町内会の役員」が多く、日頃から地域できめ細かな見守りや相談が行われている様子が見えます。

また、民生委員・児童委員と地域福祉推進員が連携し、よりきめ細かに活動しています。

#### 課 題

##### ・関係機関・団体の活動の周知

アンケート調査からは、民生委員・児童委員や地域福祉推進員が、連携しながら見守り活動や相談に取り組んでいる一方で、民生委員・児童委員や地域福祉推進員の名前や活動が、十分に市民に知られていないことが分かりました。また、地域福祉を推進するうえで核となる市社協についても、その活動内容が十分に知られていないことが分かりました。今後、これらの関係機関・団体の活動内容や役割について市民に周知し、地域の見守り体制や身近な相談体制を強化していくことが求められています。

##### ・身近な相談から専門的な支援につなぐネットワーク

テーマ別部会では、認知症や虐待など、家族だけでは抱えきれない問題や、地域だけでは解決できない問題を把握し、支援につなげるしくみの重要性について話し合われました。また、「本当に困ったときに、どこに相談すればよいか分からないのでは」といった意見もあり、困ったときにいつでも気軽に相談できる体制づくりとともに、相談を適切な専門機関につなぐネットワークづくりが、課題として挙げられました。

## (4) 「地域環境」を取り巻く現状と課題

### 現 状

#### ・生活環境に恵まれたコンパクトなまち

本市には商業施設が多く、また、保健・医療機関や福祉施設も数多く整備されています。さらに、コミュニティバス「のっティ」が運行しているなど、交通環境も整っています。東洋経済新報社が発表した「住みよさランキング2012」では、本市は全国で総合2位となっており、特に「利便度」「快適度」「安心度」の3部門において全国トップクラスの評価がされています。地域座談会でも、「生活環境がいい」「暮らしやすい」「交通が便利」といった意見が多く聞かれ、生活環境に恵まれたコンパクトなまちといえます。

### 課 題

#### ・地域福祉に関する市民の意識や理解

アンケート調査からは、地域での支え合いの重要性を感じている人が多い一方で、地域福祉を推進するために自身ができることは特になく思っている人が多く、地域福祉を進めていくうえで、市民の意識がまだまだ十分とはいえないことが分かりました。意識づくりは長期的な取り組みが必要となるため、学齢期から生涯にわたる福祉教育の場が求められています。

また、テーマ別部会では、高齢者や障害のある方が安全・安心に暮らすためには、生活環境の整備だけでなく、高齢や障害に対する理解や知識が必要との意見から、「心のバリアフリー」の重要性について話し合われました。地域座談会でも、「家族の障害や認知症を隠してしまう」といった意見があり、すべての市民が障害などについて正しい知識を持ち、互いに理解し合うことが重要だといえます。誰もが地域活動に参加でき、活躍できる環境を整えることが課題として挙げられました。

#### ・市民が集う場の整備

地域座談会やテーマ別部会では、地域住民の参加や交流の重要性が話し合われました。市内の各町内会には集会所がおおむね設置され、公民館などの公共施設も多くありますが、老朽化が進んでいる施設や、バリアフリー化がされていない施設もあり、誰もが集いやすい環境を整備していくことが求められています。